

2008年10月7日（日本時間午後2時リリース）

報道関係者各位
内閣記者会
霞クラブ
財界クラブ
京都府政記者クラブ
京都市政記者クラブ
京都経済記者クラブ
日本外国特派員協会

2008年10月7日、京都
NPO法人 STSフォーラム

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム 「STSフォーラム」第5回年次総会 2008年10月5-7日、京都

2008年10月7日、京都—科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム：Science and Technology in Society forum）第5回年次総会が、「自然との調和」と「情報通信技術の人類への影響」をメインテーマに、2008年10月5日から7日まで京都で開催された。世界91の国・地域・国際機関から、750名を超える科学者（ノーベル賞受賞者5名を含む）、政策立案者（大臣29名を含む）、ビジネスマン及びオピニオン・リーダーが今回のフォーラムに参加した。

皇太子殿下が閉会式でお言葉を述べられ、このフォーラムの目的への支持を表明された。

尾身幸次衆議院議員兼NPO法人STSフォーラム理事長は、閉会式でフォーラム声明を発表して、今回のフォーラムを総括した。フォーラム声明の主な内容は以下のとおり。

気候変動：米国、中国及びインドを含むすべての国が参加する、ポスト京都議定書の新しい国際的な枠組を構築する必要がある。

エネルギー：世界規模でのエネルギー需要の増大の観点から原子力は極めて重要であり、核物質の保障措置、安全性及び安全保障に関する厳格な条件のもとで原子力発電を増加すべきであるとともに、核融合の開発もまた将来にとって必要不可欠である

バイオ燃料：バイオ燃料の地球規模での食糧問題と環境問題に対する潜在的な悪影響が指摘されており、非食糧資源からバイオ燃料を創り出す第二世代の技術の研究開発を推進すべきである。

ゲノム研究：オーダーメイド医療の重要性が強調されるべきであり、プライバシー保護に関する国際基準が必要となっている。

情報通信技術 (ICT)：情報防護に対して常に配慮しつつ、地球環境、教育、健康問題の解決を可能にするためやビジネス・イノベーションへの貢献のために広く活用されるべきである。

知的財産 (IP)：全世界の社会経済的な発展のための科学技術の進展は、イノベーションを重視した知的財産に関する世界規模のインフラストラクチャーの構築に向けた包括的で戦略的なアプローチによって促進されるべきである。

政府開発援助 (ODA)：ODAの一部は先進国による財政支援に加えて、発展途上国の人的資源を利用するために発展途上国における共同研究の促進に活用されるべきである。

STSフォーラム第6回年次総会は、2009年10月4日から6日まで京都で開催される。

お問合せ先：

プレスセンター（京都国際会館内）

10月7日 14:00 まで

事務局長：芹澤 ゆう

広報担当：ルディービーヌ・アラニヤ

Tel. (075) 705-2050

e-mail: press@stsforum.org

STSフォーラム事務局（東京）

Tel. (03) 3519-3351

Fax (03) 3519-3352